

令和6年度 前期 学校自己評価のお知らせ

保護者の皆様へ

これは、前期に行った「学校自己評価」の結果です。学校自己評価とは、教職員自身が、学校教育目標の達成状況や教育活動の実施状況进行评估するものです。その際、評価の客観性を増すために、「児童アンケート」や「保護者アンケート」の結果も参考にします。「教職員の自己評価」と「児童アンケート」そして「保護者アンケート」の結果と考察を掲載しています。これらの評価の結果をふまえて、学校改善に向けた今後の教育活動を進めていきます。

お時間があるときによくお読みいただき、本校の教育活動に対して御理解いただきますとともに、今後も御協力を賜りますようお願いいたします。

糸島市立波多江小学校
校長 重富 泰敏



糸島市立波多江小学校

【評価方法】4段階

4：よくできている 3：だいたいできている 2：ややできていない 1：できていない

【本校の教育目標】

豊かな心と知性をもった、心身ともに健康でたくましい子どもの育成

【本年度の重点目標】

目標をもって挑戦し、自分のよさに自信を深める「はたえっ子」の育成
～はりきって（意欲）、たえまなく（継続）、えがお（喜び）で～
—対話的な学びを通して「学ぶよろこび」を実感させる教育活動の創造—

項 目		児童評価	教員評価
豊かな心	1 友達に「どうしたの」と、声をかけることができた。	2.98	3.22
	2 友達や先生に、自分の思いを（ぼうりよく や ぼうげんではなく）言葉で伝えることができた。	3.11	2.97
	3 「ありがとう」「ごめんなさい」など、すなおに伝えることができた。	3.37	3.31
	4 自分のよいところに気づいたり見つけたりすることができた。	2.81	2.88
	5 友達のよいところに気づき、一緒に活動することができた。	3.22	3.00
確かな学力	6 波多江小スタンダードの学習のきまりを守ることができた。 ①筆箱の中身をそろえる ②学習準備を家では前日に、学校では授業前にする ③チャイムがなる前にトイレなどをすませてすわる など	3.15	2.66
	7 学習のめあてに向かって、方法を決めたり、やることを決めたりして、取り組むことができた。	3.13	2.88
	8 先生の話や友達の話、反応しながら聞くことができた。	3.24	2.84
	9 学習で、自分の考えを書いたり発表したりして、表現することができた。	2.99	2.88
	10 学習で、考えたことを友達と伝え合うことができた。（1対1で、グループで）	3.11	2.94
	11 学習したことを振りかえり、「できるようになった」「わかった」と感じることができた。	3.27	2.88
健やかな体	12 学校や学年、学級の活動で自分の目標をもち、最後まであきらめないで、やりぬくことができた。	3.22	3.00
	13 外で元気に遊んだり、スポコン広場の取組に参加したりと、運動することができた。	3.12	2.88
	14 波多江小スタンダードの学校生活のきまりを守り、安全に過ごすことができた。 ①学習に必要なものだけ持ってくる ②ろうかは右がわをしずかに歩く など	3.18	2.75
	15 学校や学級のために、すすんで活動（係や当番の仕事など）できた。	3.38	3.19

重点目標における子どもの姿の評価 考察

【全体考察】

- 多くの項目において、教員の評価に比べて児童の評価が高くなっています。これは、児童が一つ一つの活動に、達成感を感じながら取り組んでいたことの表れだと考えます。一方、教員は、児童への期待が大きく、「もっとできたのでは」という思いが大きいため、評価が低くなっているのではないかと考えます。後期は、「ここまでできたらよい」という目標を児童と教員で共有し、指導と評価に生かしていく必要があります。

【豊かな心】

- ①「友達に『どうしたの』と声をかけることができた」②「自分の思いを言葉で伝えることができた」③「『ありがとう』『ごめんなさい』など、すなおにつたえることができた」は、人間関係づくりの上で、本年度、最も大事に指導していることです。特に③については、児童も教員も高く評価をしています。周りの人とつながる素地が身についてきています。暴力や暴言についても少しずつ改善してきており、児童も成長は感じていますが、教員はまだ課題を感じています。今後は、対応的な指導だけでなく、道徳や学級活動等での計画的・系統的な指導とともに、粘り強く指導と支援をしていきます。
- ④「自分のよいところに気づいたり見つけたりすることができた」は、児童の評価が最も低く、重大な課題と考えます。この項目は、自尊感情につながるもので、自信や挑戦心、他者と協働する力といった「たくましく生きる力」の素地となります。後期は、学習活動のすべてにおいて「(個や集団の)目標設定」、経過や結果における「評価(自己評価・相互評価・他者評価)」及びシェアリング(ふりかえり)を行い、一人一人が自分のよいところに気づく時間をつくることで、児童の自尊感情を高めていきます。

【確かな学力】

- 児童評価では、⑪「学習したことをふりかえり、『できるようになった』『わかった』と感ずることができた」が最も高く、多くの児童が授業で力(知識・技能面)が伸びたことを感じています。これは、授業での「まとめ」や「ふりかえり」を確実にに行っていることの成果と考えます。
- 学習中の表現(⑨書く・話す⑩伝え合う)については、児童評価の中では高くはありません。これは、学びを深める力(思考力・判断力)の習得が不十分であることが考えられます。本年度の校内研究の軸は、『対話』による全員参加の授業推進です。児童の知的欲求や好奇心を高める学習課題と学習活動の工夫を行うことと、表現する技能をスモールステップで丁寧に指導すること、表現活動についての評価を充実させることで児童の力を伸ばしていきます。

【健やかな体】

- ⑮「学校や学級のために、すすんで活動(係や当番の仕事など)できた」については、児童も教員も最も評価が高く、児童は活動に達成感や充足感を味わい、教員も児童の様子に成長を感じていることが分かります。学級の中に自分の役割があり、それに満足していることは、集団への所属感になり、自分や仲間を大事に思う自尊感情の向上にもつながります。
- ⑭「波多江小スタンダードの学校のきまりを守り、安全に過ごすことができた」については、教員の評価が低いです。児童の評価も高くはありません。学校は、集団生活の場です。多くの人との関わりの中で、自分の主張だけを通しては、危険なことや不満が起こりえます。学校では、集団生活の基本(時間・持ち物・行動等)の他にも、なぜ「きまり(ルール)」があるのか、「マナー」について等、どの学年にも計画的に指導をしています。今後も児童が納得するよう「きまりを守ること」の大切さを指導していきます。

保護者評価（アンケート）の結果について

1. 実施期間 令和6年7月1日（月） ～ 令和6年7月8日（月）
2. 配布数 703
3. 回答数 558 （ 79.4 % ）
4. 評価 4段階 4：よくできている 3：だいたいできている
2：できていないときの方が多い 1：できていない

項目	お子様の姿・学校の姿		評価
I 学校満足度	1	お子様は、学校生活を楽しんでいますか。	3.58
II 目指す子ども像の達成度 目標をもって挑戦し、自分のよさに自信を深める「はたえっ子」の育成	2	お子様は、誰かが困っていると「どうしたの」と優しく声をかけるなど、相手の気持ちを考えながら友達と仲良く遊んでいますか。	3.36
	3	お子様は、怒った時や困ったときに自分の気持ちを言葉で伝えていますか。	3.18
	4	お子様は、「ありがとう」や「ごめんなさい」と素直に伝えることができますか。	3.37
	5	お子様は、御家庭で自分から進んで学習していますか。	3.04
	6	お子様は、学校のことや家のことなどに目標をもって最後まで取り組むことができますか。	3.15
	7	お子様は波多江小スタンダードの「決めよう守ろう親子で3つのルール」を守っていますか。（家族との会話・規則正しい生活リズム・ゲームやSNS家庭のルール）	3.08
	8	お子様は、自分にはよいところがあると感じたり、がんばってよかったと感じたりしていますか。	3.48
	9	お子様は、地域のよさ（「波多江には…な よいところがある。」「波多江の…を大事にしたい」など）を感じていますか。	2.89
III 学校の教育活動の充実度	10	学校は、「わかる・できる・楽しい」全員参加の授業づくりに取り組んでいると感じますか。	3.34
	11	学校は、互いの考えを出し合い、対話する学習に努めていると感じますか。	3.30
	12	学校は、生命尊重や思いやりの心等、豊かな心づくりに努めていると感じますか。	3.35
	13	学校は、いじめのない安心した学校・学級づくりに取り組んでいると感じますか。	3.36
	14	学校は、体育や食に関する指導を通して、健康づくりに取り組んでいると感じますか。	3.43
	15	学校は、掃除指導や校内の環境づくりに努めていると感じますか。	3.40
	16	学校は、学級通信等で、学校や子どもたちの様子を積極的に伝えていていると感じますか。	3.41
	17	学校は、家庭や地域と協働して子どもを育てたり、地域のよさを感じる子どもを育てたりしていると感じますか。（コミュニティ・スクール）	3.30

保護者評価 考察

【学校満足度】

- たいへん高い評価をいただきました。評価の要因として、お子さんの様子だけでなく、学校だよりや学級通信から分かる学校の様子、また御家庭からの御相談等に対する担任や学校の対応等が記述されていました。ありがとうございます。

また、自由記述の欄には、貴重なご意見がたくさんありました。御意見については、真摯に受け止め、指導や学校運営に生かします。御記入ありがとうございました。今後も、児童が「学校が楽しい」、保護者が「安心して子どもを預けられる」と思えるような学校運営をして参ります。

【目指す子ども像の育成度】

- ②「誰かが困っていると『どうしたの』と優しく声をかけるなど、相手の気持ちを考えながら友達と仲良く遊んでいますか」④「『ありがとう』や『ごめんなさい』と素直に伝えることができる」の項目は評価が高かったです。本年度は、すなおな言葉やあたたかい言葉によって周りの人と関わる力をつけることを重点の一つとしています。御家庭や地域においても、児童が周りの人と言葉でつながることができていることを、とてもうれしく思います。今後も、学校での指導を継続していきます。
- ⑧「お子様は、自分にはよいところがあると感じたり、頑張ってよかったと感じたりしていますか」については、保護者の皆さまの評価は高いです。一方、児童評価での類似内容の項目（④）は、とても低いです。自尊感情の向上は、特に小学校の発達段階では、他者からの評価が大きな要因となります。結果のみならず、取り組んでいる過程でも学校と御家庭で「がんばっているね」「すごいね！」と励ましや賞賛の声掛けをしていきたいと思います。
- ⑨「お子様は、地域のよさ（「波多江には…なよいところがある。」「波多江の…を大事にしたい」など）を感じていますか」については、たいへん評価が低く、大きな課題と考えます。コロナ禍を経て、地域教材の教育課程が停滞している中、児童に地域への愛着を育てる学習が十分にできていませんでした。地域の「ひと・もの・こと」とかかわり、様々な人と出会い、様々な活動に参画・協働することは、児童のものの見方や考え方を広げたり、成功体験や失敗体験の場となったりするだけでなく、人の支えを感じたり、人と関わっていききたいと思ったりと、社会性を伸ばす学習にもなります。後期以降は、地域教材を計画的に実施していきます。

【学校の教育活動の充実度】

- おおむね、よい評価をいただいていると感じます。⑩「学校は、『わかる・できる・楽しい』全員参加の授業づくりに取り組んでいますか」⑪「学校は、互いの考えを出し合い、対話する学習に努めていると感じますか」については、今年度の校内研究（授業改善）の軸が「対話による全員参加の授業」ですので、後期に向けて、対話の楽しさを味わわせていきたいと考えます。
- ⑬「学校は、いじめのない安心した学校・学級づくりに努めていますか」については、担任等の丁寧な報告や対応について記述がありました。今後も、心配なことがありましたら、些細なことと思われても、遠慮なく御連絡をくださいますと助かります。
- ⑮「学校は、掃除指導や校内の環境づくりに努めていると感じますか」については、遊具の少なさについて記述がありました。ブランコやすべり台、シーソーの設置など、相談していきたいと思います。
- ⑰コミュニティスクールに関しては、「地域のよさを感じる子ども」については、前述したとおりです。今後も、御家庭や地域の御理解と御協力を得ながら、「目標をもって挑戦し、自分のよさに自信を深める「はたえっ子」を育成していきます。